

の〈水模様〉にひきつづき今回は〈植物模様〉に限って取りあげてみた。

2. 東京国立博物館、長尾美術館、個人、各所蔵の小袖、小袖裂、及び雛形本、誰が袖百種等を参考資料として、植物模様の種類、表現技術、配列形式等につき、各期を通じて比較考究した。

3. 江戸小袖系の植物模様は、時代を反映しつつ、特徴ある発達と変化を示している。初期は繡や染、絞を主とした立木風の模様が多く見られ、次期には花の丸模様等の繰返し模様となり、友禪染が盛んにみられる他、繡と染、染と絞といった技術的併用が行なわれた。後期になると花模様も写実的となり、技術的にも立体的な多様さが現われてくる。

59. 植物模様を中心とした江戸小袖（第1報）

実践女子大 細井 起能
飯塚 幸子

1. 植物をモチーフとした模様は、洋の東西を問わず種別の豊かさと色彩や姿の美感の身近さに於いて、いつの時代でも人々に愛好される模様として種々の装飾意匠の取材となっている。高度に発達した江戸時代の小袖模様においても、植物模様の逸品が数多い。そこで前回